

大切なつながり 輝く未来のために

厚真町 宮坂 尚市朗

2021年の幕開けを迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでご挨拶を申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、改めて心より感謝申し上げます。

胆振東部3町に未曾有の被害をもたらした胆振東部地震からすでに2年4カ月が経過しました。発災以降、全国・全道の行政機関などから多大なご協力と全国各地から物心両面にわたり温かなご支援を賜りました。昨年の追悼式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、自由献花方式へ形を変えて実施しました。町民の皆さまには、犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りしながらも、一様に厚真町の復興に向けて決意を新たにさせていただいたと思います。

甚大な損害を被りながら、懸命に日常生活や生業の復旧に努めてこられた町民の皆さまには、改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。さまざまな苦難を乗り越えながら、令和元年、2年と豊穰の秋を迎えることができ、改めて自然の恵みに感謝させていただきました。季節とともに移行行く田園の風景に、町民の皆さまも心癒され、励まされたことと思います。

町内では、国、北海道、厚真町が実施する災害復旧工事も順調に進み、昨年7月には、統合浄水場の災害復旧工事が終了して全町域への給水を再開しました。また、仮設住宅などでご不便な生活を余儀なくされた多くの世帯は、昨年10月末から、完成したばかりの災害公営住宅などへ入居が進み、自力再建を果たされた皆さんも大勢います。仮設住宅の解体も加速し、市街地の景観は被災前の姿を取り戻しつつありますが、被災された皆さんの心の傷は、未だ癒えることなく、不安な日々を過ごされていると察しています。今後も被災された方に寄り寄り添いながら、心のケアや地域コミュニティの充実を図らなければなりません。

現在策定を進めている第3期復旧・復興計画では、復興の主要コンセプトを「このつながりを未来へ」としました。豊かな自然や山林、何世代にもわたって受け継がれてきた夢や願い、落ち着いた田舎暮らしを求めて厚真町に移住してきた皆さんの想いを大切に、震災で傷ついたものは回復させながら、我々は新しい未来を創造していかなければなりません。基本方針には「住まい・暮らしの再建」、「なりわい（仕事）の再生」、「災害に強いまちづくり」の3本の柱を設定し、復興フェーズの重点事項を中心に本町の復旧、復興の歩みを加速してまいります。

一方で、昨年来より、新型コロナウイルスは全世界で猛威を振るい、多くの犠牲者

を出しながら、社会経済へ甚大な影響をおよぼしています。日本でも戦後初の「緊急事態宣言」が発出され、解除以降も社会活動は広く自制を求められています。繰り返される感染拡大は、経済活動や日常生活に深刻な不安をもたらしています。

本町では、町民の皆さんの感染拡大防止対策に対する理解と協力、迅速な対応により、落ち着いた状況が続いています。引き続き北海道スタイルの実践を継続していただくとともに、厚真町としても地域経済や社会的配慮者への対策をしっかりと講じてまいります。新型感染症や全国各地で発生する自然災害の脅威に、私たち一人ひとりでは抗う術を持ちませんが、社会システムにおいて防災、減災という視点や復元力を高める対策に引き続き粘り強く取り組んでいかなければなりません。

人類は災害や大戦、感染症などによる犠牲を払いながらも、幾度となく試練を乗り越え、それを契機として社会システムを改め、発展を遂げてきました。コロナ禍にあつて、新たな生活スタイルが求められるなか、本町では、今後、SDGsの理念やSociety5.0ともいわれる技術革新の到来に向けた高度情報通信基盤の整備や自然エネルギーの地産地消事業などを展開し、さまざまなイノベーションを取り込みながら新しいまちづくりに挑戦してまいります。

大きな災害を経験した厚真町ですが、その中から生まれた数多くの「つながり」を大切にしながら郷土あつまを再び輝かせ、町民が心からの笑顔を再び取り戻す日まで、皆さまと連帯して、復旧・復興の道をたくましく歩み、その先にある北海道のオンリーワンをめざして全力投球してまいります。重ねて町民の皆さまのご理解とお力添えを賜りますようお願いいたします。結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。